



Via Latina 22

2023年2月 318号

総本部よりのお知らせーマリア会

インド従属地区での司祭叙階式	1
シャミナード国際神学校での助祭叙階式	2
コンゴ特別地区での終生誓願式	3
コートジボアール従属地区での終生誓願式	4
国際神学校への年次訪問	4
Vicente 神父の尊者称号の公布	5
Raymond Halter 神父の墓への年次巡礼	6
AGMARの新しい出版物	7

インド従属地区での司祭叙階式

2023年1月20日、George Majhi士は、シンプールの福者シャミナード小教区でイエズス会 Felix Toppo大司教によって司祭に叙階されました。SM, FMIメンバーそしてMLCメンバーを含む約1200名の信徒がこの厳粛な叙階式に参列しました。叙階式は入場ダンスによって始まりました。ミサの祭儀は祈りに満ち、神の深い愛に入るよう列席者を招きました。

ミサの終わりに新しく司祭に叙階されたGeorge Majhi師は、マリア会総本部メンバー、USA管区本部メンバー、従属地区長評議員会、養成者、家族メンバー、そして良きマリア会司祭として成長するよう助けてくれた人たちに感謝を述べました。



George神父(中央)
大司教様とご両親に囲まれて

この厳粛な式典はダンスとお祝いの食事をもって終了しました。

シャミナード国際神学校での助祭叙階式

2023年1月7日、メキシコ出身のBro. José Luis González Molina士が助祭に叙階されました。叙階式はVia Latina 22の柱の聖母聖堂にて行われました。今年の新しい事はカメルーン出身のマリスト会のChristian Ngoura Mvoutsisiの助祭叙階式と同時に行われたことでした。マリスト会は、二人の叙階式を一緒に行うことが出来るようシャミナード神学校に依頼しました。この叙階式は、いつものように、ローマ教皇庁、教理省長官、Luis Ladaria枢機卿によって執り行われました。



左よりJosé Luis González士、Ladaria枢機卿、
Christian Ngoura Mvoutsisi

この叙階式には、マリア会USA管区霊生部長、Timothy Kenney師、メキシコマリア会、コーディネーターNereo Ramirez士、そしてメキシコ信徒マリアニスト共同体から2名のメンバーが出席しま

した。José Luisが所属している管区の兄弟たちと、メキシコのマリアニスト家族を代表したこれらの人たちの列席は、大変感謝されました。彼の家族はこの式典をインターネットで直接見守ることが出来ました。

この叙階式には、ローマにいるマリアニスト家族の様々な枝のメンバー：FMIのシスター、SM会員、そして信徒マリアニスト共同体メンバーが集いました。更に、José Luisのクラスメイトと友人たちも列席しました。当然のことながら、多くのマリスト会の会員たちもChristianに同伴して参加しました。それで、マリスト会神学生の素晴らしい聖歌隊を当てにすることが出来ました。叙階式の後、パンデミック以来初めて、総本部のスタッフによって用意された軽食を囲み、和やかなひと時を過ごすことが出来ました。

この叙階式によって主がマリア会に与えてくださったお恵みに感謝しましょう。私たちは聖霊に対し、新助祭José Luisの役務が実り豊かなものであるよう、その豊かなお恵みを彼に注ぎ続けてくださるよう祈ります。

コンゴ特別地区での終生誓願式

2023年1月21日、土曜日、私たちの兄弟、Rufin N'Zaa Monshita とJean Tigana Nsamper がマリア会で終生誓願を宣立しました。ミサの祭儀はキンシャサ大司教区の名誉司教、Edouard Kisonga司教によって司式されました。コンゴ特別地区の責任者、Romuald N'Lumbu師が、出席できなかった地区長の代理で彼らの誓願を受け入れました。



左よりRomuald N'Lumbu師 (Coordinator)、Rufin Monshita士、
E. Kisonga司教、Jean Nsamper士とSimplice Mouluaton師

2名の司祭とキンシャサとコンゴ ブラザビルから来た他の司祭が出席し誓願式を手伝いました。この特別地区にあるマリアニスト家族の3つの枝（MLC、アリアンス マリアル、そして修道者）はこの誓願式で立派な代表を務めました。同時に、特別地区は私たちの創立者の記念日を見越して祝いました。またこの式典に私たちの兄弟RufinとJeanの2つの家族、男女修道者、友人と知人たちが列席しました。

ミサの後に、招待者はリメットにある会員の共同体に集まり、音楽とダンスを伴うお祝いの食事を分かち合いました。

私たちは神様に、その愛と私たちの会員という無条件の贈りものを感謝します。

コートジボアール従属地区での終生誓願式

2023年1月22日、日曜日、コートジボアール従属地区は幸いな行事を祝う喜びを頂きました。Stéphane Somda士がアビジャンのビエトリーにあるアフリカの聖母小教区でマリア会の終生誓願を宣立しました。この誓願式は、コートジボアールでのマリアニスト存在60周年記念式典を終結する一環として執り行われました。

ミサの祭儀はアビジャン教区の司教代理Pierre Claver Yessoh師によって司式されました。彼は司教区の修道生活に責任ある立場です。コートジボアール従属地区長、Noël Dominique Kouao Akobé師を含む数名の司祭が、司教代理と共同司式を行いました。



マリア会会員とマリアニスト家族のメンバーに囲まれたStéphane士

フランス地区、地区長のJean-Marie Leclerc士もこの誓願式に出席し、Stéphane Somda士の誓願を受け入れました。Leclerc士は、従属地区の60周年記念にあたり、コートジボアールの全マリアニスト家族への総長からのメッセージを読み上げました。この誓願式ミサの間に、22名の信徒がマリアニスト家族におけるマリアへの奉獻を行いました。この式典の終わりに、お祝いの食事が供されました。

国際神学校への年次訪問

2023年1月10日から13日にかけて、ローマのシャミナード国際神学校への教会法上の視察訪問が行われました。委員会メンバーは次の2名です：フランス地区長、Jean-Marie Leclerc士、そして総本部霊生局長、Pablo Rambaoud師。Jean-Marie士は、イタリアに居るフランス地区のメンバーを訪れるた

め、また養成に関する総本部との会議のために、彼自身がローマに来る機会を捉え訪問メンバーの一人として要請されました。いつものように、委員会メンバーは神学校共同体の日程に沿って祈りの時間や食事など神学校のスケジュールにあわせて彼らと生活を共にしました。訪問の初めに、委員会メンバーは養成チームと面談しました：校長のMiguel Ángel Cortés師と副校長おFrédéric Bini士です。その後、彼らは神学生と養成者に個別に会いました。



神学校共同体と2人の訪問委員

2人の訪問者は、受けた歓迎に感謝しました。両訪問者は、自分たちが受けている司牧的、マリアニスト的、神学的な養成プログラムについて神学生が高く評価していることを強調しました。また彼らは、神学校の兄弟的雰囲気と養成者との結びつきを高く評価しています。

この訪問の終わりに、委員会はその報告書を先ず拡大総長評議会に、それから神学校共同体に提出しました。総長評議員会は彼らが気付いたこと、そして将来への提案を神学校共同体と分かち合いました。公式報告書はマリア会ゾーンと行政単位の全責任者に送付されました。

Vicente 神父の尊者称号の公布

1月19日、列福・列聖省長官、Marcello Semeraro枢機卿との謁見の時、教皇フランシスがマリア会、Uralde LazcanoのVicente López師（ビトリア1894 - カティス1990）に神のしもべの英雄的徳の称号を公布することを承認したと教皇庁報道局は発表しました。こうして、教皇フランシスは、Vicente 神父の聖性についての美徳と評判に関するPositioへの枢機卿と司教の肯定的票を正式に認められました。この決議は、二日前の火曜日、2023年1月17日の会議にて行われました。

この調査は2008年、スペイン カティス教区の教区審議会の開始で始められました。審議会は2010年にその作業を終えました。2017年に完成したPositio（調査についての必要資料）もまた列福・列聖省に送付されました。列福・列聖省の神学顧問がPositioを審議し2022年3月に概ね肯定的な票を与えました。教皇の真の側近である枢機卿と司教は資料をすべて審議し、2023年1月17日にそれを承認し

ました。



終生誓願者の黙想会 1917年8月24日

座って左より：Juan Vegareche士、Vicente López de Uralde士、Emilio Biron師（黙想会指導）、Máximo Martínez士、Florentino Fernández士（スペイン管区の管区長、後サラゴサ管区の管区長）立って左より：Emilio García士、Felipe Lasagabaster士、Marcelo Lete士、Marcelino Uribiondi士、Valeriano Rebé士、Celestino Martínez士

マリア会列聖請願者は、私たちの愛するVicente神父に尊者の称号を与える文書を発令するため今度は列福・列聖省とコンタクトを取らなければなりません。

この出来事は、マリアニスト修道者とマリアニスト家族にとってどんな意味があるのでしょうか？ 私たちはマリア会総長、André Fétis師の言葉によって、次のことを確信出来ます：すなわち、「マリア会とマリアニスト家族においてもう1人の尊者を得ることは、私たちが前進するのを助けてくれる神からの大きな賜物です。マリアニストの生活は聖性という実りを生み出し続けます。そのことは今の時代におけるマリアニスト生活の妥当性のしるしです。それはまたキリスト教生活と修道生活におけるゆるしの秘跡の役割について考察する機会ともなり得ます。」

私たちはVicente神父がゆるしの秘跡を受ける人に与えた励ましの言葉をもってこの記事を終えます：「前進しましょう、常に前進しましょう！」

Raymond Halter 神父の墓への年次巡礼

今年、再び、コートジボアール従属地区のマリア会修道者はRaymond Halter 神父（1925－1998）の墓への巡礼を計画しました。この墓はアビジャン-デュメの修練院の敷地内にあります。この巡礼は修道者たちが計画してから15年目となります。この機会に、アフリカの聖母の国立マリア聖地でマリアに奉献した信徒たちとカリスマ刷新運動のメンバーたちはHalter神父の司牧活動の場所を訪問することに協力しました。

この巡礼は2023年1月7日(日)に行われました。巡礼のテーマは：「イエスは神の国を宣べ伝え、あらゆる病人を癒された」(マタイ4・28)。2000名近い巡礼者がHalter神父の墓で祈るために集まりました。



Halter神父の墓で大勢の信者が祈りのために集いました

Halter神父は、霊の識別と内的癒しの霊的な賜物を授かった神の人として、信徒の間で高い評価を得ています。Halter神父はフランスでカリスマ刷新運動に関与しました。そして1989年にマリアの聖地に行きました。その任務において、彼は多くの人々が神と和解するのを助けました。これらの人々は深い霊的な慰めと内的癒しを体験しました。彼らの多くは貧しい人、困窮者、病人であり、そして多くの問題と生活の困難に苦しんでいる人たちでした。

総長評議員会はマリアニスト列福請願者、Antonio Gascón師に対しHalter神父の列福調査の開始の要請をアビジャンの大司教に提出するよう依頼しました。近いうちにこの要請がなされ、大司教が司教区レベルの列福調査を開始するよう、私たちは希望しています。

AGMARの新しい出版物



AGMARは“La Gerbe”collection第13巻を発行したところです：これはFirmin DélalaからCharles Marionneauへの心わくわくする書状を巡るもので、William-Joseph Chaminadeについての知識に寄与するものです。マリアニストのEddie Alexandre師は、間違いから真実を読み解こうと試みるため、シャミナード師の甥の息子の書状を分析しています。異なる章は読者をDubourg家族、David Monier, ボルドーのシャミナード師の土地、そして他の興味ある領域の発見に誘導します。これらの章はそれぞれ独立して読むことができます。

本のコピーは、マリア会の修道者の間に更に配布するため、行政単位の本部に送付されました。



第36回総会（2024年7月）の準備

全共同体への意見聴取、マリアニスト家族、協働者、そして任意の友人たちへ開かれている

総会のためのマリア会と青年に関する意見聴取

1月22日、私たちの福者・創立者の記念日に、マリアニスト家族という背景において、青年と共に、また青年のために行う司牧ケアに関して、意見聴取が全共同体に送付されました。またこの意見聴取はマリアニスト家族の全メンバーと、これに参加を希望する私たちの協働者にも開かれています。9月まで継続する最初の段階は、4つの連続する段階から成っています。

「共に歩む教会」方式で行われるこの意見聴取は、若者の世界（思春期の若者、あるいは10代後半の若者）から受け取った呼びかけに関して、私たちが既に提供した回答について、また私たちが彼らのためだけではなく彼らと共に一緒に進展させることが出来ることについて、私たちが教え導いてくれるでしょう。この最初の段階は、他の若者への同伴と福音宣教における最初の当事者となるよう若者に呼びかけた私たちの創立者から私たちが受け継いだ伝統に適っています。

意見聴取は各行政単位の責任者を通して送付され会員に配布されます。この大切な計画への各自の協力に感謝します。

どうか聖霊が私たちの考察を照らし、今日の若者たちに奉仕するのを助けてくださいますように。

最近の総本部通信

- 計報：1-4号
- 1月22日：マリアニスト家族という背景において、若者と共にそして若者のための司牧ケアについての第36回マリア会総会（2024年7月）の準備についての意見聴取の開始、総長評議員会から行政単位責任者へ3ヶ国語で送付
- 1月23日：いくつもの財務報告書と資料、本部財務局長、Michael McAward士から全行政単位の責任者と財務部長へ3ヶ国語で送付
- 1月24日：シャミナード国際神学校への訪問報告書、霊生局長、Pablo Rambaud師から全行政単位の責任者へ3ヶ国語で送付
- 1月24日：マリア会3部門、#158 - 2023年マリアニスト連帯基金とマリアニスト養成基金の資金の配分、マリア会財務局長、Michael McAward士からマリア会全会員へ3ヶ国語で送付
- 1月25日：2023年1月17日のオンライン会議の延長について、総長評議員会から発展途上行政単位の責任者へ3ヶ国語で送付

総本部日程

- 1月28日-3月26日：総長評議員会のUSA国管区への教会法上の視察訪問